文化財をたずねて

No.18

大津地区の文化財めぐり

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6962）

啓運山妙典寺

清水の道標地蔵

備前街道跡

岡部氏の墓

①啓運山妙典寺

妙典寺は、文亀２年（1502）に備前国浦伊部の僧日慧上人が大津の法華垣内に法華道場を開設したのが始まりとされる。寛永17年(1640)に赤穂城下に移転、その後藩主浅野長友が生母の菩提寺として大改修し、寺号を高光寺と改めた。この時妙典寺の寺号を残すため、大津の船渡に寺を再興して現在に至っている。寺には江戸時代に赤穂藩主が立ち寄ったことを記した記録が残されている。

②大慈庵跡

妙典寺の東の一角に大慈庵と称する庵寺があった。宝暦２年（1752）に記された『播陽万宝知恵袋』によると、花岳寺の末寺で境内は20間四方、享保元年（1716）に藩主森長直が建立し、本尊は千手観音像で正徳５年（1715）に造立したものであったという。昭和10年頃無住となり廃寺となった。

③清水の首塚地蔵

船渡橋から少し西に行ったところに「首塚地蔵」と呼ばれる地蔵が安置されている。昔、京の都に仲の良い兄弟がいたが、兄が悪友に誘われて盗賊となり播磨地方で悪事を働いていた。一方の弟は都で有能な役人に出世した。盗賊に困り果てた播磨の役人が追討の援軍を頼んだところ、指揮官として下向したのは弟であった。弟は泣く泣く兄の首を切ってこの地に埋めた。という大津に伝わる兄弟の悲話があり、これを哀れんで村人が建てたのがこの地蔵である。首から上の病気を治癒するとして、現在でも参詣者が多い。

④清水の道標地蔵

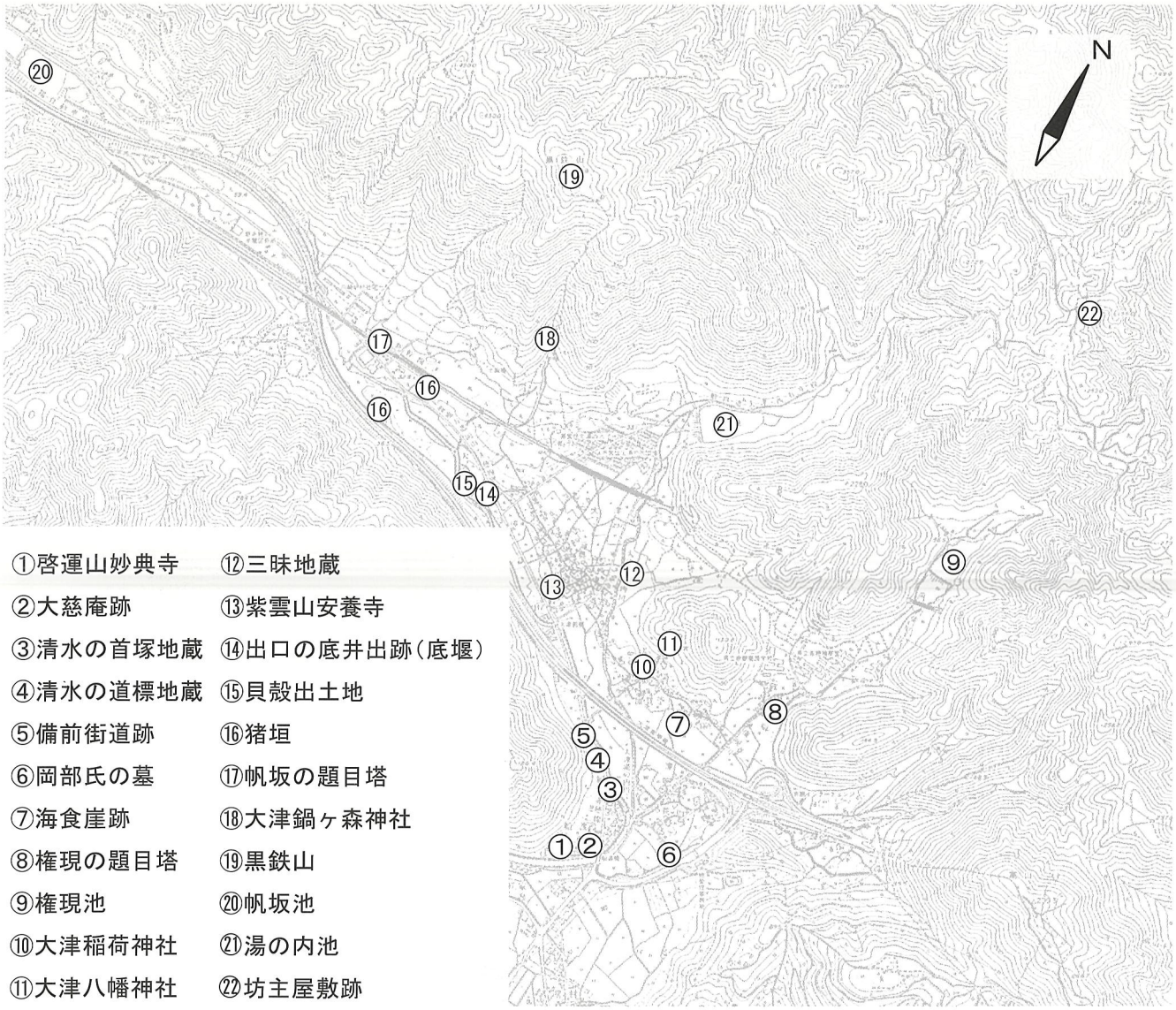
県道の傍に台石が道標になった地蔵尊がある。正面には「川こしうね道」、左側面には「左びぜん道」と刻まれている。「川こしうね道」とは大津川を渡り、有年に通じる道のことを指し、「びぜん道」とは帆坂峠を越えて備前に至る備前街道を指す。道標はもと備前街道の傍に南を向いて立っていたと思われる。

⑤備前街道跡

備前街道は、赤穂城下から新田を経て、船渡から大津川右岸の山際を通って帆坂峠に続いていた。現在、大津川と山麓の間にその跡を見ることができる。

⑥岡部氏の墓

大津には中世にまつわる逸話がいくつか残されている。そのひとつで、岡部六弥太という源氏の武将が関わる戦いが、堂山の麓のイチブ（麻の一種）の畑の中で行われたという。その後、大津にイチブが育たないのは、この戦いで憤死した武士の祟りではないかということで、鎮魂のために慶応元年（1865）に仮墓の跡に建てたものである。



①啓運山妙典寺
②大慈庵跡
③清水の首塚地蔵
④清水の道標地蔵
⑤備前街道跡
⑥岡部氏の墓
⑦海食崖跡
⑧権現の題目塔
⑨権現池
⑩大津稲荷神社
⑪大津八幡神社
⑫三昧地蔵
⑬紫雲山安養寺
⑭出口の底井出跡（底堰）
⑮貝殻出土地
⑯猪垣
⑰帆坂の題目塔
⑱大津鍋ヶ森神社
⑲黒鉄山
⑳帆坂池
㉑湯の内池
㉒坊主屋敷跡

権現の題目塔

権現池

⑦海食崖跡

荒前から神保にかけての田地の中に北西方向に高低差１ｍ程度の小崖が続いている。地表下１～1.2m以下が海成とみられる砂層となっていること、近くの堂山、田茂に海成とみられる堆積物があることから、この小崖は縄文時代の海食崖（海岸線）と考えられている。

⑧権現の題目塔

大津には、被葬者と最後の別れをする三昧が二ヶ所にあった。そのうちの権現の三昧跡の横に「南無妙法蓮華経」と日蓮宗の題目が彫られた石塔がある。文政９年（1826）に船渡の妙典寺が建立したものである。

⑨権現池

水不足が深刻であった大津では、灌漑用の溜池が多く造られた。個人所有の池も入れると15程度もあったという。その中でも大きいのが、権現池・湯の内池・帆坂池である。権現池は、天保年間（1830～1844）に当時の庄屋が資金を投じて着工、その後赤穂藩が決壊防止のための大工事を行い、約10町歩の田の水源として利用された。その後昭和18～19年に堤防を高くする改修、さらに昭和49年（1974）に余水吐の改修を行い、近年には平成13・14年度に堤防等の改修を行って現在に至っている。

⑩大津稲荷神社

八幡宮の参道の西に、稲荷神社・金刀比羅神社・鍋ヶ森神社を祀った一角がある。稲荷神社は明治２年（1869）３月15日に勧進、一説には明治42年（1909）に合祀されたという。２月初めの午の日に宮司、宮総代、参拝者によって祭礼が行われる。金刀比羅神社は掛山にあったものが昭和56年（1981）に合祀された。また、ここにはかつて和気清麻呂が船を繋いだという伝承のある松の大木があり、現在祠の中に切り株が残されている。

大津稲荷神社

⑪大津八幡神社

大津は地名が示すように、古代には赤穂湾や坂越湾を支配する勢力を持つ港として栄えたという。大津八幡神社は、和気清麻呂が豊前の宇佐八幡宮からの帰路に寄港し、八幡神を勧進したのが始まりとされる。社殿は天正年間（1573～1592）に宇喜多秀家の軍勢が駐屯した際に全て焼失したといい、その後、明暦２年（1656）に本殿が再建された。鳥居前の薬師堂には、２体の木造菩薩立像が安置されている。平安時代後期の作とみられ、赤穂市有形文化財に指定されている。鳥居は享保20年（1735）の銘があり、市内で年代が判明している鳥居のうち、坂越の生島、西有年の大避神社に次いで古いものである。

大津八幡神社

⑫三昧地蔵

スクモ塚の裾の田地の一角に、奥大津の三昧跡がある。ここに明治４年（1871）の銘がある穏やかな顔をした地蔵が安置されている。村人が有年の石工に依頼して造らせたところ、依頼者の顔にそっくりな地蔵だと評判になったという言い伝えがある。

紫雲山安養寺

⑬紫雲山安養寺

安養寺は大治元年（1126）に大和国南河内郡天見村の得蓮院了乗が、西国修行の途中に立ち寄り草庵を結んだのが始まりとされる。はじめは真言宗であったが、浄土真宗の流布に伴い、元禄８年（1695）に改宗した。大津八幡宮の神宮寺として加賀宇にあったが、改宗に伴い現在地に移転した。天明８年（1788）に本堂焼失、寛政６年（1794）に再興し現在に至る。

出口の底井出跡（底堰）

⑭出口の底井出跡（底堰）

大津は大きな河川がないため、慢性的な水不足に悩まされていた。このため、天保年間（1830～1844）の終わり頃、庄屋であった出口屋（浜田家）が出資し、地下水脈を地上に導く堰を作った。以来150年間にわたって近隣の田を潤したが、大津川の改修によって水脈が変わり、現在水は枯れている。

⑮貝殻出土地

水田の石垣補修のための掘削中に偶然発見された。この近辺まで海が迫っていたことをうかがい知ることができる。

⑯猪垣

農村である大津では、猪や鹿などの被害から農作物を守るために山麓の随所に猪垣を築いていた。築かれた時期は不明である。山陽自動車道の敷設、大津川の改修等によって破壊されたが、現在も北田・南田などで一部を見ることができる。高いところでは、170cm余の石垣が残る。

猪垣

帆坂の題目塔

⑰帆坂の題目塔

帆坂峠に向かう道筋に「南無妙法蓮華経」の題目が刻まれた石塔がある。日蓮宗が盛んであった大津において、天保２年（1831）に日蓮の550回忌を記念して身延講中によって建立されたものである。

⑱大津鍋ヶ森神社

湯の内団地の西にある山道を登った黒鉄山の中腹に位置している。水不足に悩む村人が、水神を祀る千種町の鍋ヶ森神社から分霊を勧進したものと伝わる。旱魃時にはここで雨乞いの神事が行われた。参加者に飴湯を振る舞い、全員で雨乞いしたという。

大津鍋ヶ森神社

⑲黒鉄山

大津地区の北側にそびえる黒鉄山は標高430.9mで市内最高峰である。頂上からは、北は中国山脈、南は淡路島・四国が望める。第２次世界大戦までは山麓で銅鉱石の採掘が行われていたという。大正時代初期頃まで、旱魃時には降雨の祈りをこめて村人総出で山頂にうず高く積み上げた薪を焚いて雨乞いを行ったという。

黒鉄山

⑳帆坂池

県境のある帆坂峠近くに帆坂池がある。開削時期は不明であるが、全国的に大飢饉の続いた天明年間（1781～1789）に当時の庄屋、有本新九郎が中心となり大改修を行ったことが明らかとなっている。因みにこの工事での出費がかさんだため年貢が滞り、新九郎は領外追放となって三石で没したという話が伝わる。昭和24年（1949）に堤防が決壊して大津に水害をもたらし、大改修が行われた。その後平成８年度から10年度にかけて堤防・放水設備等の改修が行われた。北田・南田・出口・奥・中開地等の10町歩の田に水を供給している。

湯の内池

㉑湯の内池

黒鉄山東麓に位置し、大津の溜池の中で最大の規模を誇る。開削時期は不明であるが、江戸時代中期には既にあったと推測されている。文化４年（1807）に堤防が決壊し、死者１名を出したことが記録に残る。昭和30年代に堤防の補強を行い、その後樋門・余水吐・湯の内川最上流部の大改修を行い、さらに昭和63年度から平成３年度にかけて余水吐、放水設備の改修を行った。長坂・奥・クボリ・スクモ塚・中開地・加賀亨の各地区の田に水を供給している。この池の水は美しい緑色を呈しているが、これは戦前まで近くに銅鉱山があり、銅鉱石の影響を受けているのではないかといわれている。

坊主屋敷跡

㉒坊主屋敷跡

湯の内から西有年に通じる山道を２km程登った尾根の下の藪の中に約30m×10m四方の平坦地がある。明治41年（1908）に刊行された『赤穂郡誌』に、ここに昔僧が住んでおり、時折大津村の清水に降り来て入浴を乞ったと記されている。なお、この辺りにはかつて「右中山村左西有年村」と記された道標があったという。

（調査協力：赤松光弘・井本学明・岡田順一・小野哲雄・旧林茂存）